

福岡大学医学会ニュース

福岡大学医学会

福岡市城南区七隈

福岡大学医学部内

印刷 福岡印刷株式会社

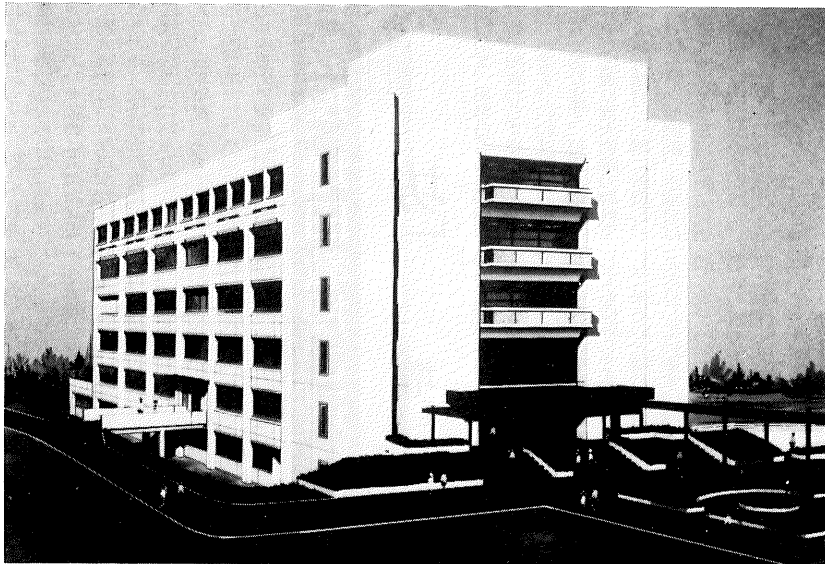
福岡市博多区東那珂一丁目10-15

福岡大学

医学情報センター



図書委員
三好 萬佐行



医学情報センター完成予想図

カンファレンス室・研究室
教材展示室 (ミュージアム)
AV室・医学史資料室
書籍(単行本) 管理部門
雑誌・二次資料 管理部門
入口
書庫・学習室・人体標本作成室

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

福岡大学に医学部と病院が開設された頃から、医学図書分館の建物の拡充が話題になっていた。現状のままで新しい時代の医学の教育、研究はもとより診療の実践にも情報の利用が充分でなかったからです。大学院の医学研究科設置を期して医学情報の総合利用が強く要望されるようになり、情報センターの設置が実際に計画されてきた。敷地も確保され、実際に建設が開始した。本年七月一日、学長や理事長の大学・法人の関係者が多数出席し、地鎮祭が行われた。明けて昭和五十九年六月には完成の予定である。

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

この医学情報センターのおおよそについて説明しよう。

現在の医学部が、ある研究棟の西側に建設される。研究棟や実習棟とは、渡り廊下などの建築物で直接つながるのではなく、花壇をめぐって作られる道路で連絡することになる。また、研究棟の一階は情報センターの二階のレベルに当るが、センター自身

第75回 医師国家試験 93 名合格

哲翁 和博 第一内科	吉田 尊久 小児科
中村 聡子 東京医歯大第一内科	吉本 勝彦 小児科
中村 尚 熊大皮膚科	緒方 健一 熊大皮膚科
野田 慶太 第二内科	新屋 瑛一 第二内科
野田 隆 第二内科	中村 明生 整形外科
野中 幹裕 第一外科	松枝 俊祐 第一内科
橋本 幹裕 放射線科	山田 豊 第一内科
林田美知代 放射線科	緑川 孝二 整形外科
服巻由起子 産婦人科	奥 研二 第二外科
東原 秀行 放射線科	二宮 健 第二内科
平野 基 第一内科	石原昌二郎 皮膚科
福家 浩 小児科	作 和明 宮崎医大耳鼻咽喉科
前田 正存 小児科	矢野 良雄 眼科
前之園抄子 小児科	前原 俊徳 第一外科
松村 晶子 小児科	中村 秀治 第一外科
三尾 寿樹 第二外科	岩本 英明 整形外科
宮本 康嗣 第一内科	池田 真也 第一内科
持田 博美 第一内科	恒吉 礼三 第二内科
森重 徳継 心臓血管外科	安藤 公英 第二外科
山崎 初代 長崎大第一内科	魚返 英寛 第二外科
山崎 俊二 山口大第一内科	中岡 幸一 第一内科
石井 衣子 第一内科	三宅 恵一 第一内科
井上 登生 小児科	森 英俊 第一内科
内田俊一郎 第一外科	今村 正秋 第一内科
宇野 研吾 麻酔科	山下 兼輝 第二内科
大村 信正 熊大第一内科	富田 祥夫 小児科
尾上 英俊 整形外科	松本伸一郎 産婦人科
甲斐 明 山口大泌尿器科	吉兼 正文 第一内科
香月 直樹 久留米大第一外科	相良 久治 小児科
加藤 陽子 熊大皮膚科	木附 久雄 第一外科
川口 健二 婦人科	光石 和夫 第一外科
久米 浩太 鹿児島市立病院産婦人科	吉浦 光三 整形外科
小坂 博基 第二内科	なわ本学からは百四十五人(新卒百十九人、既卒二十六人)が受験。九十三人(新卒七十四人、既卒十九人)が合格し、合格率は六十四・一%であった。
佐藤 祐之 麻酔科	
鮫島淳一郎 熊大麻酔科	
平田耕太郎 麻酔科	
三村 一郎 長崎大第一内科	

本学卒業生から初の大学院博士

大阪大学病理学教室の四年間

古 林 芳 範

私は、昭和五十四年三月、福岡大学を卒業し、医師国家試験に合格し、大阪大学病理学教室で大学院生として研究を始めた。それまで、医師国家試験に追われる生活から、がらりと変わり、ネズミ実験器具に囲まれた生活である。毎日毎日ネズミにエサをやり、そのネズミから得た卵巣をすりつぶして微量のステロイドホルモンを測定するのが日課となった。更に、週三回のホルモン勉強会のために、英語の論文を読まなければならなかった。福岡の事柄にならなくなった。福岡からまったく知らない土地に行き、とても不安であったが、そこの先生方と共に実験に励み、日々あった。教室の先生方は、思い出し出である。

てしまっていた時は、皆で自分。昼は大学で実験をし、夜は救急病院で臨床を学ぶ。この生活が続いた。後輩の指導を行なった。昭和五十八年三月二十一日、大阪大学卒業。学位証書を受け取った。

(学位論文: Furubayashi, Y., Terada, N., Sato, B. and Matsunoto, K.: Localization of Δ^4 -5 β -and 5 α -reductase and 17 β -ol-dehydrogenase in immature golden hamster testes. Endocrinology, 111, 269-272, 1982)

私は今年の三月三十一日付で、火曜日は三信会原病院、水曜日はいよいよ福大ともお別れを告げて、全くの風来坊になった理でありま

す。福大医学部とは私がまだ久留米大学に勤務していた昭和四十七年頃から関係ができて、福大医学部の創設者の一人である樋口謙太郎名誉教授が、友人の関係で私を福大医学部眼科教室の創設者に加えてくれた事から福大医学部とのかわりができた次第であります。昭和四十八年から五年間は現役教授として、その後の五年間は客員教授及び特任教授として、伊東学長、西園医学部長及びその他多くの方々の御配慮により、十年間公私共に大変お世話になり、その間実に愉快に、かつ、みのある人生の一コマを過ぎさせて頂いた事を心から感謝申し上げ、厚くお礼を申し上げます。

現在の私は悠々自適にしている理

根の浅い人ほど倒れ易いのではない

えたりしています。雑草は小さい

間に取り除いた方が除り易いと同

じように悪の芽は小さい時に除去

しなければいけない」とも考え

ています。一通り畠全体の草を除

り終った頃には、また始めの頃除

った畠の畝にまた草が生え出して

います。しかし草にもそれぞれ時

季により生える種類が異なるある

時はペンペン草、ある時ははたる

草、ある時はぜに苔といういろい

ろあります。かや草は根が深く地下

茎が長く三干輝以上も畠を掘りお

こさねばならない事もあります。

私の趣味は前にも書いた通りテ

ニスと読です。テニスは九大医学

部医化学教室に大学院生として

入学していた頃、当時の児玉桂三

教授がとてもテニス好きであった

関係上、先生らの手ほどきや先輩

のしこきのお蔭で今日の私のテニ

スがあるものといつても感謝して

は夢のようです。

して眼科教室に帰つてからは、

れほど熱心ではなく、朝鮮の平壤

医専に赴任してからは、こちらら

式でしたので、しばらく軟式には

それから大東亜亜硬式には

争となりテニスどころではあり

せんでしたが、京城の陸軍病院

召集されてから、病院長がまた

ニス好きで時々相手させられ

した。その頃同じ軍隊で元アテ

カップ選手の慶応OBの鶴田選

や岩田屋の中牟田喜一郎社長と

ニスを通じて知り合いになりま

た。やがて敗戦となり、郷里の

児島県薩摩郡入来村に開業中、

学校の先生、三人の方々と兄

生徒たちで小学校庭にテニスコ

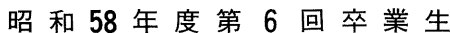
トを自力で作り、ネットも、縄

れんで作り、板のラケット作製

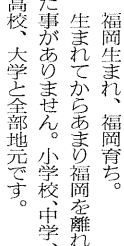
の草ボールでテニスをした事も

は夢のようです。

昭和二十四年五月熊本県生まれ。昭和五十年熊本大学医学部卒業後研修医期間を含めて三問、同大学第二内科の岸本進教授に師事。疑問、平凡な己の才能を最大限生かす努力をしているか。座右銘、よく遊びよく学べ。



山本 博



三十年以上も前になるでしょう。足邊で七隈に來た事があります。警固小学校から今の県道5号線を経由高宮まで下り、高庄線に沿つて歩いたのを憶えていますから野間大池の横を通つて來たのだと思ひます。目的地は菊池神社、南朝の忠臣菊池武時を祭つた神社に参拝したあとは附近の山地を走り回つて半日を過ごしました。点在する村落のぐるりには田園風景が広がつて印象深い足邊だった事を憶えています。団地や大学の建物が並ぶ今では想像もつかない光景です。

での人工弁置換術には充分に実力を発揮、弁置術での死亡ゼロの記録を誇りとしています。が、それはドウオル先生の御陰です。又、三年ぶりに再渡米、今回は一月二日の冠動脈外科、いわゆるA-C

バイパス手術について再度特訓を受け、心臓外科医として本当に良い先生にめぐりあえたものと幸福に思っています。更に先生は臨床

心臟外科助教授

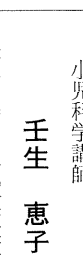
大学では山岳部に属していました。あなたが自宅からの通学なので年寄りの人も居る事だし、積雪期などは苦勞して山に出かけていました。下宿生活の自由さに慣れたもので、九大を卒業して第一外科に入局、胆石症に関する研究テーマを頂きました。三宅博教授が停年退官後は九州中央病院に奉職し、大学時代の厳しさとはまた違った三宅院長の豊かな人間性に触れながら診療生活を送れた事を有り難いと思っています。福岡大学に移ってから多忙を極めていますが、雲の流れや風のそよぎにふと山野を渡る風を感じて山を憶う事しばしばです。時々山を歩きたいと思いますが、あれもこれも思うにまかせない日常です。

木村 道生

の他に実験的研究もなされ、新しい手術には動物実験を先にするという方針で、私も福岡東病院では自分で十頭程を飼ひ実験について手術という、自分では熱心な心臓外科医として十年余りを過しました。学会発表、論文発表等一般病院勤務医としては異端な動きをしたがの運のつきて、今回浅尾教授の御要請で福大に來ることになりました。

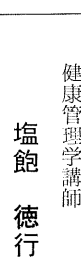
心臓手術に精を出す事が当面の課題ですが今後は今考えている課題の実験的研究の發展具合と臨床面への応用が実現するかどうかに期待と不安があります。どしどし手術して、症例が増加すれば又研究も充実すると考えております。

夏田 康則



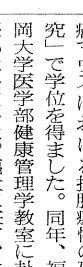
出生地は宮崎県延岡市ですが、

壬生 恵子



五十二年春よの小児科学教室で主に血液・腫瘍の患者さんの治療にあたっています。血液に進んだのは、医者になりたての研修医の時に、未熟児の患者さんを頭蓋内出血、肺出血で何人も亡くしたことがきっかけになっています。そ

塩飽 徳行



昭和二十五年五月二十六日生。

昭和58年度の主な行事

繁栄の象徴と習った「七色の煙」の維持増進、病氣と健康の境にゐる人、病氣に陥ってしまった思ふ人、病氣に陥ってしまった思ふ人の健康管理を、臨床、基礎の両よりアプローチして行く事だと考えています。私のやれる事はこの中のほんの一部に過ぎないと思いますが、今までに学んだ事生かし、今後、更に発展させたと考えています。

趣味は、子供の時より始めたニスですが、今は、一年前に始まったゴルフの難しさに取りつかれています。

福岡大学医学部

昭和58年度の主な行事

第三、第五列之國之戎金

4月6日 入学式（医学部新入生）

○九名)

4月16～17日 医学部三年次生専門

オリエンテーション、
ンプ（於竈登園）

5月14日
第75回医師国家試験

発表(93名合格)

5月21日 福岡大学創立記念日

5月20日
医学部一年次生
テーシヨンキャン

唐津シーサイド)

6月15日 福友会懇親会

7月6日 動物慰霊祭（アニマル・タール）

7月20日
福岡大学医学会総会

び例会

教室 便り

学位取得

米本 忠 昭

福岡大学に提出。昭和五十八年三月二十四日付で医学博士授与。論文名「Measurement of urinary thiamine propyl disulfide metabolites as an index of liver function」

藤野 正典 (内科第二)

福岡大学に提出。昭和五十八年三月二十四日付で医学博士授与。論文名「Echocardiographic Assessment of Left Ventricular Function in Patients with Complete Left Bundle Branch Block」

福井 敏 (精神医学)

福岡大学に提出。昭和五十八年三月二十四日付で医学博士授与。論文名「精神障害者における生活空間利用の病理性についての研究—主に精神分裂病者を中心として—」

黒木 政秀 (内科第二)

福岡大学に提出。昭和五十七年十一月八日付で医学博士授与。論文名「切除された小腸腸壁二例のX線学的検討」

宮脇 仁 (心臓外科)

福岡大学に提出。昭和五十七年十一月八日付で医学博士授与。論文名「低体温低流量体外循環

の術後機能面よりの検討」

岩崎 敬雄 (整形外科)

福岡大学に提出。昭和五十八年三月二十四日付で医学博士授与。論文名「老人性骨粗鬆症におけるビタミンD結合蛋白に関する研究」

南川 博道 (整形外科)

福岡大学に提出。昭和五十八年三月二十四日付で医学博士授与。論文名「胸郭出口症候群における臨床的および解剖学的研究」

米本 忠 昭 (病理学第二)

福岡県対がん協会より助成金「腫瘍の電子顕微鏡的観察(特に悪性リンパ腫、肺癌、甲状腺癌に

関する研究)」

田中 啓二 (生化学第一)

福岡大学に提出。昭和五十七年十一月八日付で医学博士授与。論文名「Purification and characterization of carcinoembryonic antigen-related antigens in normal adult feces」

黒木 政秀 (内科第二)

福岡大学に提出。昭和五十七年十一月八日付で医学博士授与。論文名「切除された小腸腸壁二例のX線学的検討」

宮脇 仁 (心臓外科)

福岡大学に提出。昭和五十七年十一月八日付で医学博士授与。論文名「低体温低流量体外循環

海外出張

田川 隆輔 (解剖学第二)

①台湾②台湾医学会出席③57・11・12-57・11・21

池原 征夫 (生化学第二)

①アメリカ②国際細胞生物学会出席③58・4・23-58・5・5

古川 達雄 (薬理学)

①アメリカ②Sears Science Advisory Board Meeting出席③58・1・19-58・1・23

重松 峻夫 (公衆衛生学)

①サウジアラビア②JICAのexpert がん登録の指導③57・12・27-58・2・7

荒川 規矩男 (内科第二)

①アメリカ②第三十六回アメリカ高血圧学会 第二回大陸間高血圧シンポジウム出席③57・10・8-57・11・3

関 雅彦 (内科第二)

①カナダ②アメリカ③第十四回世界胸部疾患学会④57・10・8-57・10・20

金岡 毅 (産科婦人科学)

①アメリカ②世界産婦人科学会及び妊娠性高血圧国際学会出席、米国各大学産婦人科学教室訪問のため③57・10・15-57・11・3

幅 誠二 (生化学第二)

①アメリカ②Brandeis 大学

③基礎免疫学の研究④57・10・21-58・10・20

清水 博

(産科婦人科学)

①アメリカ②世界産婦人科学会出席、コロラド大学訪問のため③57・10・15-57・10・29

田口 星 (産科婦人科学)

①アメリカ②世界産婦人科学会出席のため③57・10・15-57・10・29

池原 征夫 (生化学第二)

①アメリカ②国際細胞生物学会出席のため③57・10・15-57・10・29

古川 達雄 (薬理学)

①アメリカ②Sears Science Advisory Board Meeting出席③58・1・19-58・1・23

重松 峻夫 (公衆衛生学)

①サウジアラビア②JICAのexpert がん登録の指導③57・12・27-58・2・7

荒川 規矩男 (内科第二)

①アメリカ②第三十六回アメリカ高血圧学会 第二回大陸間高血圧シンポジウム出席③57・10・8-57・11・3

関 雅彦 (内科第二)

①カナダ②アメリカ③第十四回世界胸部疾患学会④57・10・8-57・10・20

金岡 毅 (産科婦人科学)

①アメリカ②世界産婦人科学会及び妊娠性高血圧国際学会出席、米国各大学産婦人科学教室訪問のため③57・10・15-57・11・3

幅 誠二 (生化学第二)

①アメリカ②Brandeis 大学

③基礎免疫学の研究④57・10・21-58・10・20

第六回実験動物慰霊祭

アニマルセンター

本年度の実験動物慰霊祭を去る七月六日(ニールセンター)において行われた。今回は医学部、薬学部、理学部、体育学部などから日頃動物を用いた研究を行っている研究者約百三十名の参加者があり、例年以上に盛況かつ厳粛に行われた。

まず松岡センター長の挨拶のあと、左記のような祭詞が捧げられ、この一年間に実験のために尊い命を捧げた多くの動物の冥福を祈った。

祭 詞
本日、ここに、福岡大学アニマルセンターの第六回実験動物慰霊祭を執り行つた。動物実験は欠くことのできないものであり、動物は、実験に用いられる動物はどのような動物であり、また、我々人類と同じ生命体である。動物実験は、この尊い命の犠牲の上に成り立っていることを銘記しなければならぬ。昨年の慰霊祭から今日までの一年間に、福岡大学のアニマルセンターにおいてヤギからマウスに至る大よ一万余匹の動物が、その命を私共の実験のために犠牲にされて

また、私達はこの犠牲をいささかも無駄にしないよう、より多くの研究成果をあげるべく努力しなければなりません。

私共は、ここに教育、研究の

研究発表会
日時 昭和58年2月16日
会場 福岡大学医学部臨床大講堂
1、豚動・静脈培養内皮細胞および平滑筋細胞に関する Cyclic Nucleotide の生化学的分析を含む光顕・電顕・酵素組織化学的研究
大学院学生・病態構造系 原田健一郎
2、大腸のポリプと癌におけるCEAに関する免疫組織学的研究
大学院学生・病態構造系 小田 龍二
3、耳鳴の音色因子分析の研究
大学院学生・病態構造系 福井 敏
4、胸郭出口症候群の臨床的および解剖学的研究
大学院学生・病態構造系 宮脇 仁
5、老人性骨粗鬆症におけるビタミンD結合蛋白の血中動態に関する研究
リハビリテーション部助手 岩崎 敬雄
6、肝機能検査法としての尿中thiamine propyl disulfide 代謝物の測定法
大学院学生・病態生化学系 小田 龍二
7、精神障害者における生活空間利用の病理性についての研究—主に精神分裂病者を中心として—
大学院学生・社会医学系 福井 敏
8、血小板減少性疾患における血小板膜糖蛋白質の分析—等電点二次元電気泳動法を用いた研究
小児科助手 王生 恵子
司会 高岸直人教授 小田 龍二教授

また、私達はこの犠牲をいささかも無駄にしないよう、より多くの研究成果をあげるべく努力しなければなりません。

私共は、ここに教育、研究の

研究発表会
日時 昭和58年2月16日
会場 福岡大学医学部臨床大講堂
1、豚動・静脈培養内皮細胞および平滑筋細胞に関する Cyclic Nucleotide の生化学的分析を含む光顕・電顕・酵素組織化学的研究
大学院学生・病態構造系 原田健一郎
2、大腸のポリプと癌におけるCEAに関する免疫組織学的研究
大学院学生・病態構造系 小田 龍二
3、耳鳴の音色因子分析の研究
大学院学生・病態構造系 福井 敏
4、胸郭出口症候群の臨床的および解剖学的研究
大学院学生・病態構造系 宮脇 仁
5、老人性骨粗鬆症におけるビタミンD結合蛋白の血中動態に関する研究
リハビリテーション部助手 岩崎 敬雄
6、肝機能検査法としての尿中thiamine propyl disulfide 代謝物の測定法
大学院学生・病態生化学系 小田 龍二
7、精神障害者における生活空間利用の病理性についての研究—主に精神分裂病者を中心として—
大学院学生・社会医学系 福井 敏
8、血小板減少性疾患における血小板膜糖蛋白質の分析—等電点二次元電気泳動法を用いた研究
小児科助手 王生 恵子
司会 高岸直人教授 小田 龍二教授

また、私達はこの犠牲をいささかも無駄にしないよう、より多くの研究成果をあげるべく努力しなければなりません。

私共は、ここに教育、研究の

研究発表会
日時 昭和58年2月16日
会場 福岡大学医学部臨床大講堂
1、豚動・静脈培養内皮細胞および平滑筋細胞に関する Cyclic Nucleotide の生化学的分析を含む光顕・電顕・酵素組織化学的研究
大学院学生・病態構造系 原田健一郎
2、大腸のポリプと癌におけるCEAに関する免疫組織学的研究
大学院学生・病態構造系 小田 龍二
3、耳鳴の音色因子分析の研究
大学院学生・病態構造系 福井 敏
4、胸郭出口症候群の臨床的および解剖学的研究
大学院学生・病態構造系 宮脇 仁
5、老人性骨粗鬆症におけるビタミンD結合蛋白の血中動態に関する研究
リハビリテーション部助手 岩崎 敬雄
6、肝機能検査法としての尿中thiamine propyl disulfide 代謝物の測定法
大学院学生・病態生化学系 小田 龍二
7、精神障害者における生活空間利用の病理性についての研究—主に精神分裂病者を中心として—
大学院学生・社会医学系 福井 敏
8、血小板減少性疾患における血小板膜糖蛋白質の分析—等電点二次元電気泳動法を用いた研究
小児科助手 王生 恵子
司会 高岸直人教授 小田 龍二教授

また、私達はこの犠牲をいささかも無駄にしないよう、より多くの研究成果をあげるべく努力しなければなりません。

私共は、ここに教育、研究の

研究発表会
日時 昭和58年2月16日
会場 福岡大学医学部臨床大講堂
1、豚動・静脈培養内皮細胞および平滑筋細胞に関する Cyclic Nucleotide の生化学的分析を含む光顕・電顕・酵素組織化学的研究
大学院学生・病態構造系 原田健一郎
2、大腸のポリプと癌におけるCEAに関する免疫組織学的研究
大学院学生・病態構造系 小田 龍二
3、耳鳴の音色因子分析の研究
大学院学生・病態構造系 福井 敏
4、胸郭出口症候群の臨床的および解剖学的研究
大学院学生・病態構造系 宮脇 仁
5、老人性骨粗鬆症におけるビタミンD結合蛋白の血中動態に関する研究
リハビリテーション部助手 岩崎 敬雄
6、肝機能検査法としての尿中thiamine propyl disulfide 代謝物の測定法
大学院学生・病態生化学系 小田 龍二
7、精神障害者における生活空間利用の病理性についての研究—主に精神分裂病者を中心として—
大学院学生・社会医学系 福井 敏
8、血小板減少性疾患における血小板膜糖蛋白質の分析—等電点二次元電気泳動法を用いた研究
小児科助手 王生 恵子
司会 高岸直人教授 小田 龍二教授

また、私達はこの犠牲をいささかも無駄にしないよう、より多くの研究成果をあげるべく努力しなければなりません。

私共は、ここに教育、研究の

研究発表会
日時 昭和58年2月16日
会場 福岡大学医学部臨床大講堂
1、豚動・静脈培養内皮細胞および平滑筋細胞に関する Cyclic Nucleotide の生化学的分析を含む光顕・電顕・酵素組織化学的研究
大学院学生・病態構造系 原田健一郎
2、大腸のポリプと癌におけるCEAに関する免疫組織学的研究
大学院学生・病態構造系 小田 龍二
3、耳鳴の音色因子分析の研究
大学院学生・病態構造系 福井 敏
4、胸郭出口症候群の臨床的および解剖学的研究
大学院学生・病態構造系 宮脇 仁
5、老人性骨粗鬆症におけるビタミンD結合蛋白の血中動態に関する研究
リハビリテーション部助手 岩崎 敬雄
6、肝機能検査法としての尿中thiamine propyl disulfide 代謝物の測定法
大学院学生・病態生化学系 小田 龍二
7、精神障害者における生活空間利用の病理性についての研究—主に精神分裂病者を中心として—
大学院学生・社会医学系 福井 敏
8、血小板減少性疾患における血小板膜糖蛋白質の分析—等電点二次元電気泳動法を用いた研究
小児科助手 王生 恵子
司会 高岸直人教授 小田 龍二教授

また、私達はこの犠牲をいささかも無駄にしないよう、より多くの研究成果をあげるべく努力しなければなりません。

私共は、ここに教育、研究の

研究発表会
日時 昭和58年2月16日
会場 福岡大学医学部臨床大講堂
1、豚動・静脈培養内皮細胞および平滑筋細胞に関する Cyclic Nucleotide の生化学的分析を含む光顕・電顕・酵素組織化学的研究
大学院学生・病態構造系 原田健一郎
2、大腸のポリプと癌におけるCEAに関する免疫組織学的研究
大学院学生・病態構造系 小田 龍二
3、耳鳴の音色因子分析の研究
大学院学生・病態構造系 福井 敏
4、胸郭出口症候群の臨床的および解剖学的研究
大学院学生・病態構造系 宮脇 仁
5、老人性骨粗鬆症におけるビタミンD結合蛋白の血中動態に関する研究
リハビリテーション部助手 岩崎 敬雄
6、肝機能検査法としての尿中thiamine propyl disulfide 代謝物の測定法
大学院学生・病態生化学系 小田 龍二
7、精神障害者における生活空間利用の病理性についての研究—主に精神分裂病者を中心として—
大学院学生・社会医学系 福井 敏
8、血小板減少性疾患における血小板膜糖蛋白質の分析—等電点二次元電気泳動法を用いた研究
小児科助手 王生 恵子
司会 高岸直人教授 小田 龍二教授

また、私達はこの犠牲をいささかも無駄にしないよう、より多くの研究成果をあげるべく努力しなければなりません。

私共は、ここに教育、研究の

研究発表会
日時 昭和58年2月16日
会場 福岡大学医学部臨床大講堂
1、豚動・静脈培養内皮細胞および平滑筋細胞に関する Cyclic Nucleotide の生化学的分析を含む光顕・電顕・酵素組織化学的研究
大学院学生・病態構造系 原田健一郎
2、大腸のポリプと癌におけるCEAに関する免疫組織学的研究
大学院学生・病態構造系 小田 龍二
3、耳鳴の音色因子分析の研究
大学院学生・病態構造系 福井 敏
4、胸郭出口症候群の臨床的および解剖学的研究
大学院学生・病態構造系 宮脇 仁
5、老人性骨粗鬆症におけるビタミンD結合蛋白の血中動態に関する研究
リハビリテーション部助手 岩崎 敬雄
6、肝機能検査法としての尿中thiamine propyl disulfide 代謝物の測定法
大学院学生・病態生化学系 小田 龍二
7、精神障害者における生活空間利用の病理性についての研究—主に精神分裂病者を中心として—
大学院学生・社会医学系 福井 敏
8、血小板減少性疾患における血小板膜糖蛋白質の分析—等電点二次元電気泳動法を用いた研究
小児科助手 王生 恵子
司会 高岸直人教授 小田 龍二教授

また、私達はこの犠牲をいささかも無駄にしないよう、より多くの研究成果をあげるべく努力しなければなりません。

私共は、ここに教育、研究の

研究発表会
日時 昭和58年2月16日
会場 福岡大学医学部臨床大講堂
1、豚動・静脈培養内皮細胞および平滑筋細胞に関する Cyclic Nucleotide の生化学的分析を含む光顕・電顕・酵素組織化学的研究
大学院学生・病態構造系 原田健一郎
2、大腸のポリプと癌におけるCEAに関する免疫組織学的研究
大学院学生・病態構造系 小田 龍二
3、耳鳴の音色因子分析の研究
大学院学生・病態構造系 福井 敏
4、胸郭出口症候群の臨床的および解剖学的研究
大学院学生・病態構造系 宮脇 仁
5、老人性骨粗鬆症におけるビタミンD結合蛋白の血中動態に関する研究
リハビリテーション部助手 岩崎 敬雄
6、肝機能検査法としての尿中thiamine propyl disulfide 代謝物の測定法
大学院学生・病態生化学系 小田 龍二
7、精神障害者における生活空間利用の病理性についての研究—主に精神分裂病者を中心として—
大学院学生・社会医学系 福井 敏
8、血小板減少性疾患における血小板膜糖蛋白質の分析—等電点二次元電気泳動法を用いた研究
小児科助手 王生 恵子
司会 高岸直人教授 小田 龍二教授

また、私達はこの犠牲をいささかも無駄にしないよう、より多くの研究成果をあげるべく努力しなければなりません。

私共は、ここに教育、研究の

編集後記

福岡大学に医学部が創設されて以来、創設期に伴う種々の問題の解決に追われながらも、いつの間にか十周年が過ぎ、いよいよ次の発展・充実期に入っています。

これに伴い、医学教育・研究・医療などの新しい方向を指向しながら、カリキュラムの大幅な変更、病院の増・改築、医学情報センターの建設などが進められてい

ます。

医学部における図書館は、教育・研究に重要な役割を果たす施設ですが、本学においては、たんに図書館としてのみでなく、もっと

幅広い機能をもった医学情報セン

ターが、研究・視覚教育・自主的学習などをすすめるものと

考え、本施設についての解説記事をお願い致しました。

他方、本医学部卒業生が、本医学部内で研究・医療などに活躍され、さらには指導的な役割を果たすことが、本医学部の発展に必須のことであると同時に、卒業生が他大学・研究施設・病院などにおいても、活躍されることが重要なこととなります。本学卒業生で直ちに他大学大学院に入られ、初博士が誕生したことも、喜ばしいことです。

(古川記)